

平成25年度甲西中学校学校評価（12月実施） 教員自己評価の集計結果

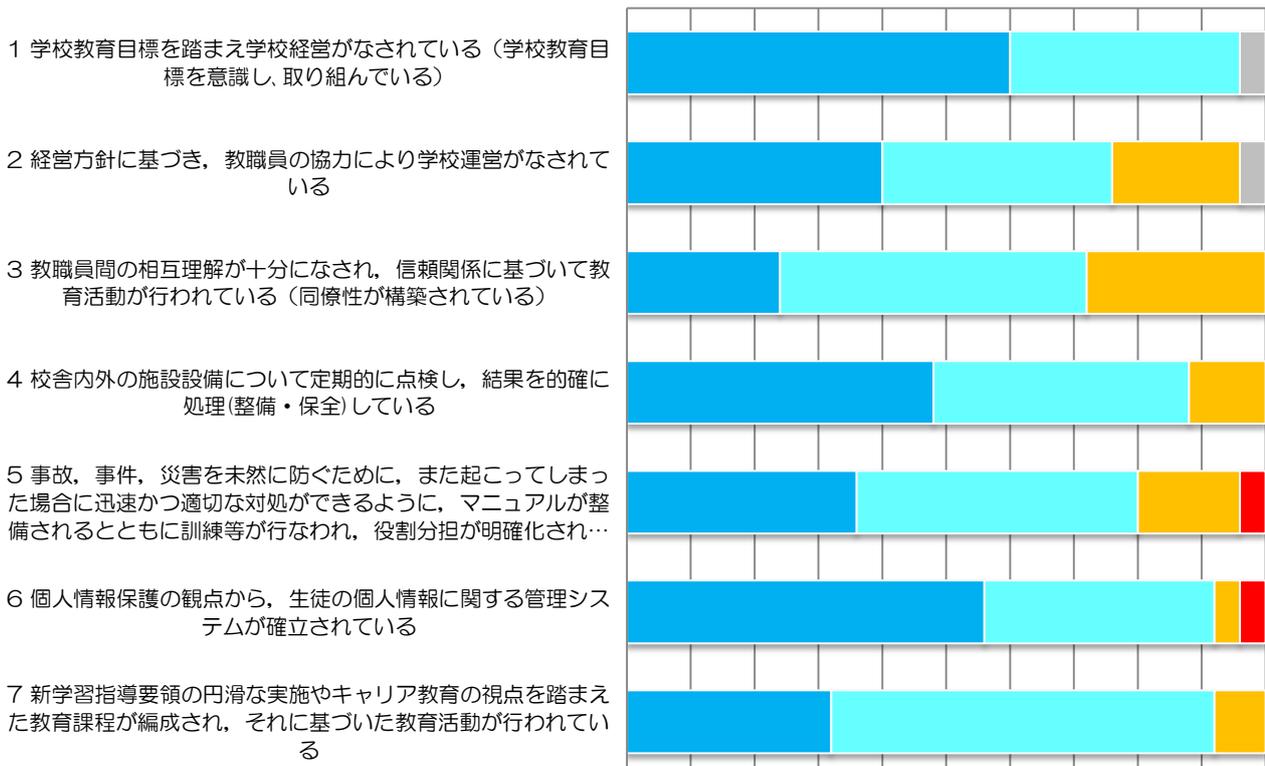
4： そう思う 3： ややそう思う 2： ややそう思わない 1： そう思わない 0： 回答できない

1 学校経営・組織・安全管理

学校評価項目	4	3	2	1	0	評 価	
						後期	前期
1 学校教育目標を踏まえ学校経営がなされている（学校教育目標を意識し、取り組んでいる）	15	9	0	0	1	3.6	3.5
2 経営方針に基づき、教職員の協力により学校運営がなされている	10	9	5	0	1	3.2	3.2
3 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている（同僚性が構築されている）	6	12	7	0	0	3.0	2.9
4 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理(整備・保全)している	12	10	3	0	0	3.4	3.4
5 事故、事件、災害を未然に防ぐために、また起こってしまった場合に迅速かつ適切な対処ができるように、マニュアルが整備されるとともに訓練等が行なわれ、役割分担が明確化されている	9	11	4	1	0	3.1	3.2
6 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている	14	9	1	1	0	3.4	3.5
7 新学習指導要領の円滑な実施やキャリア教育の視点を踏まえた教育課程が編成され、それに基づいた教育活動が行われている	8	15	2	0	0	3.2	3.1

1 学校経営・組織・安全管理

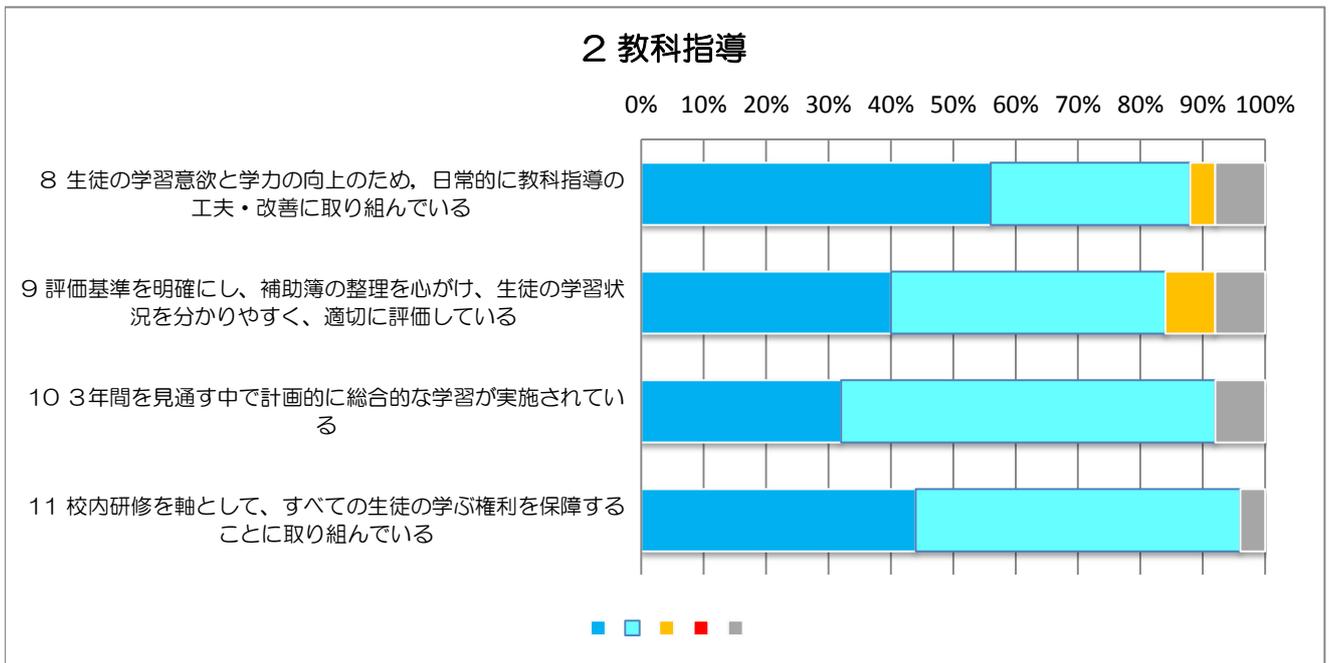
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1 ■ 0

2 教科指導

学校評価項目	4	3	2	1	0	評価	
						後期	前期
8 生徒の学習意欲と学力の向上のため、日常的に教科指導の工夫・改善に取り組んでいる	14	8	1	0	2	3.6	3.2
9 評価基準を明確にし、補助簿の整理を心がけ、生徒の学習状況を分かりやすく、適切に評価している	10	11	2	0	2	3.3	3.2
10 3年間を見通す中で計画的に総合的な学習が実施されている	8	15	0	0	2	3.3	3.3
11 校内研修を軸として、すべての生徒の学ぶ権利を保障することに取り組んでいる	11	13	0	0	1	3.5	3.3



1 学校経営・組織・安全管理についての自由記述

- 学校教育目標に向かえるように教務の先生方からの発信がタイムリーに出されているのありがたいです。克己自問には生徒のがんばりや行事への取り組みが写真入りでわかりやすく提示されているので保護者からも続けていただきたいとの声が届いています。
- 自ら情報交換を積極的にできるようにする必要があります。《歩み寄りましょう》
- 項目3について 生徒についての情報が職員間で共有されず、後になって知ることがあります。《受け身?》
- 安全点検票は毎月提出した方がいいと思う。(忘れてしまうので)《そうであるなら来年からはそうしましょう》

《考察》

- 学校長を中心とした学校教育目標達成の姿勢は「学びの共同体」をはじめ、文化活動にも成果が出ている。生徒指導も事例によっては異なるが、職員相互が指導(教育)方針を受け入れ、ともに修正し合い、共有化できる新たな指導概念を生み出す姿勢と最良の変化(イノベーション)が重要である。

2 教科指導についての自由記述

- 充実した研究により、多くのことを学んでいる。実践に取り入れ、一定の成果は出ていると感じている。
- 学園祭中の1~4校時だけの授業はいかがなものか、この期間中「20時間+特別活動」はどうか? 年間予定では28時間になっているが…。《要望と現実、合唱の取組もしかり…》
- 教科の研究をもっとしなければならないと感じます。生徒の学びの雰囲気がよく「学びの共同体」の成果かなあと感じます。
- 「学び」の取組が自分自身少し理解できたような気がします。毎月の授業提供はたいへんだと思うが、学びの研究は続けていきたいと思う。

《考察》

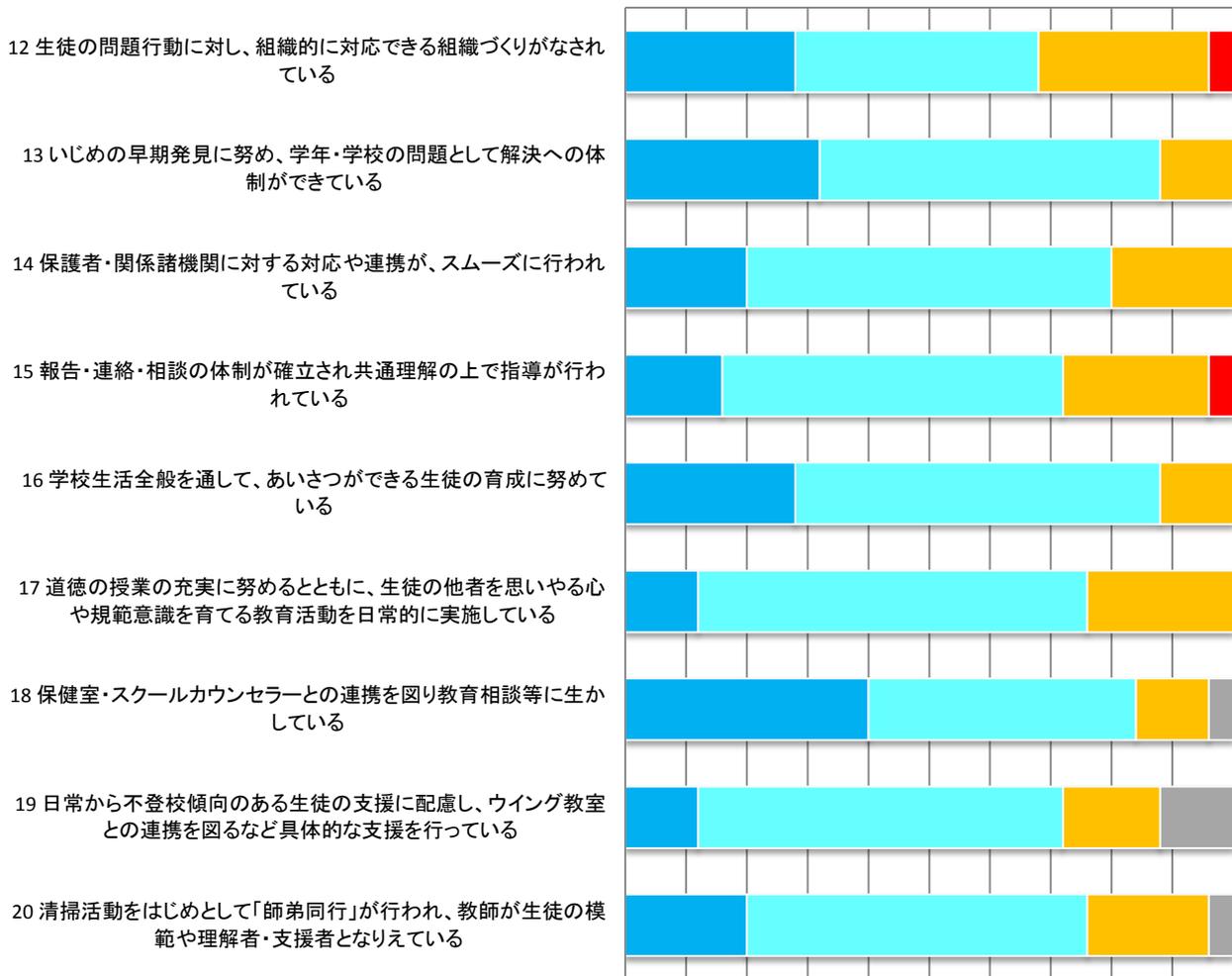
- 「学びの共同体」に取り組んで2年目になるが、定着しつつあるという声広がってきている。最近、大学教育においても、アクティブラーニング(Active Learning)という「少人数グループによる議論(Small Group Discussionn SGD)」や「問題発見・解決型学習(Problem Based Learning PBL)」を導入しているという。そうすると本校の取組は、少人数による議論の基礎づくりともいえるので、3年目はこの理論に迫る研究もできるのではないかと感じる。また、保護者とともに取り組む(巻き込んだ)家庭学習の定着が望まれる。

3 生徒指導・教育相談

学校評価項目	4	3	2	1	0	評価	
						後期	前期
12 生徒の問題行動に対し、組織的に対応できる組織づくりがなされている	7	10	7	1	0	2.9	2.6
13 いじめの早期発見に努め、学年・学校の問題として解決への体制ができています	8	14	3	0	0	3.2	3.0
14 保護者・関係諸機関に対する対応や連携が、スムーズに行われている	5	15	5	0	0	3.0	3.0
15 報告・連絡・相談の体制が確立され共通理解の上で指導が行われている	4	14	6	1	0	2.8	2.9
16 学校生活全般を通して、あいさつができる生徒の育成に努めている	7	15	3	0	0	3.2	3.1
17 道徳の授業の充実に努めるとともに、生徒の他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している	3	16	6	0	0	2.9	2.7
18 保健室・スクールカウンセラーとの連携を図り教育相談等に生かしている	10	11	3	0	1	3.3	3.3
19 日常から不登校傾向のある生徒の支援に配慮し、ウイング教室との連携を図るなど具体的な支援を行っている	3	15	4	0	3	3.0	3.1
20 清掃活動をはじめとして「師弟同行」が行われ、教師が生徒の模範や理解者・支援者となりえている	5	14	5	0	1	3.0	3.0

3 生徒指導・教育相談

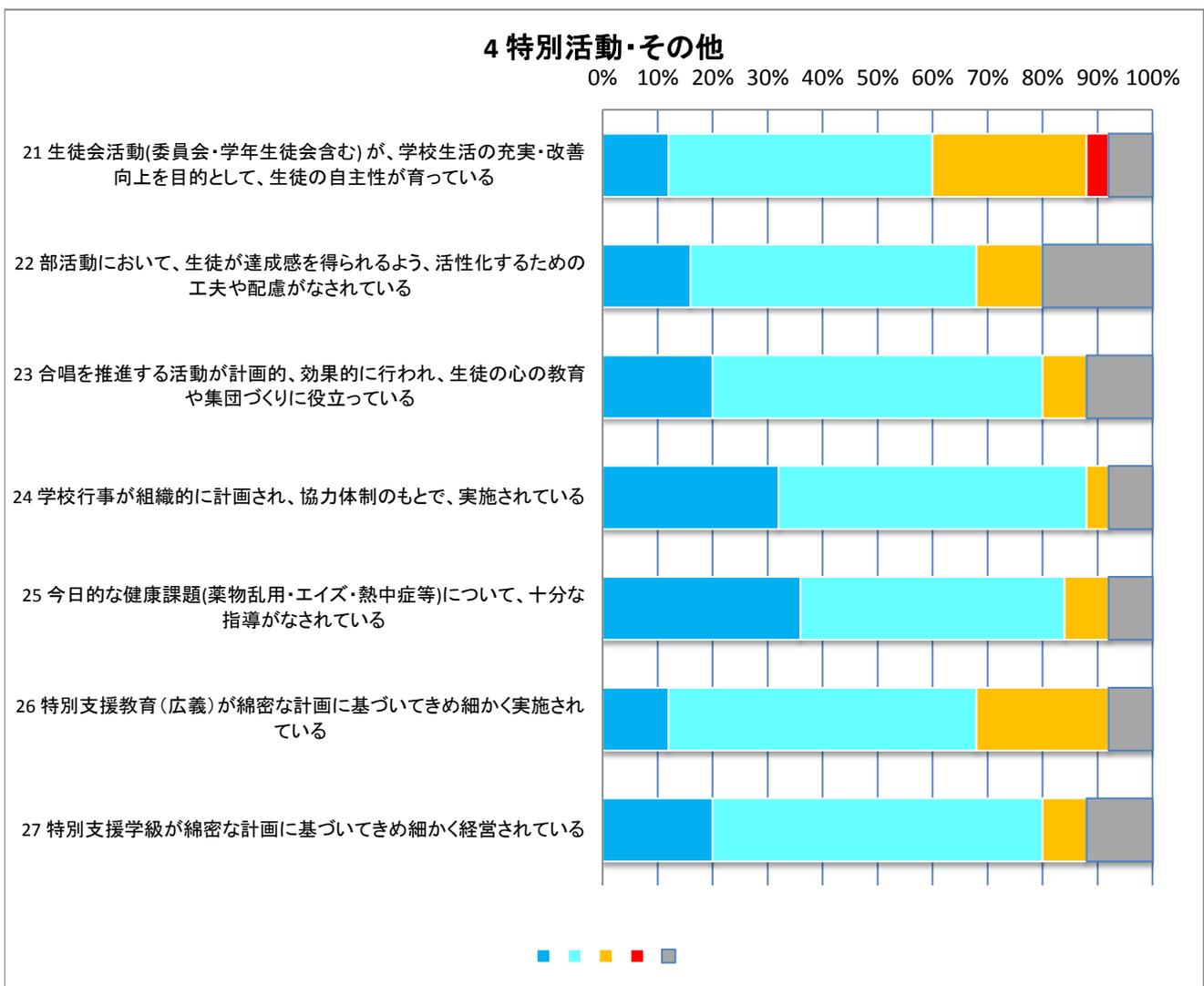
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ ■ ■ ■ ■

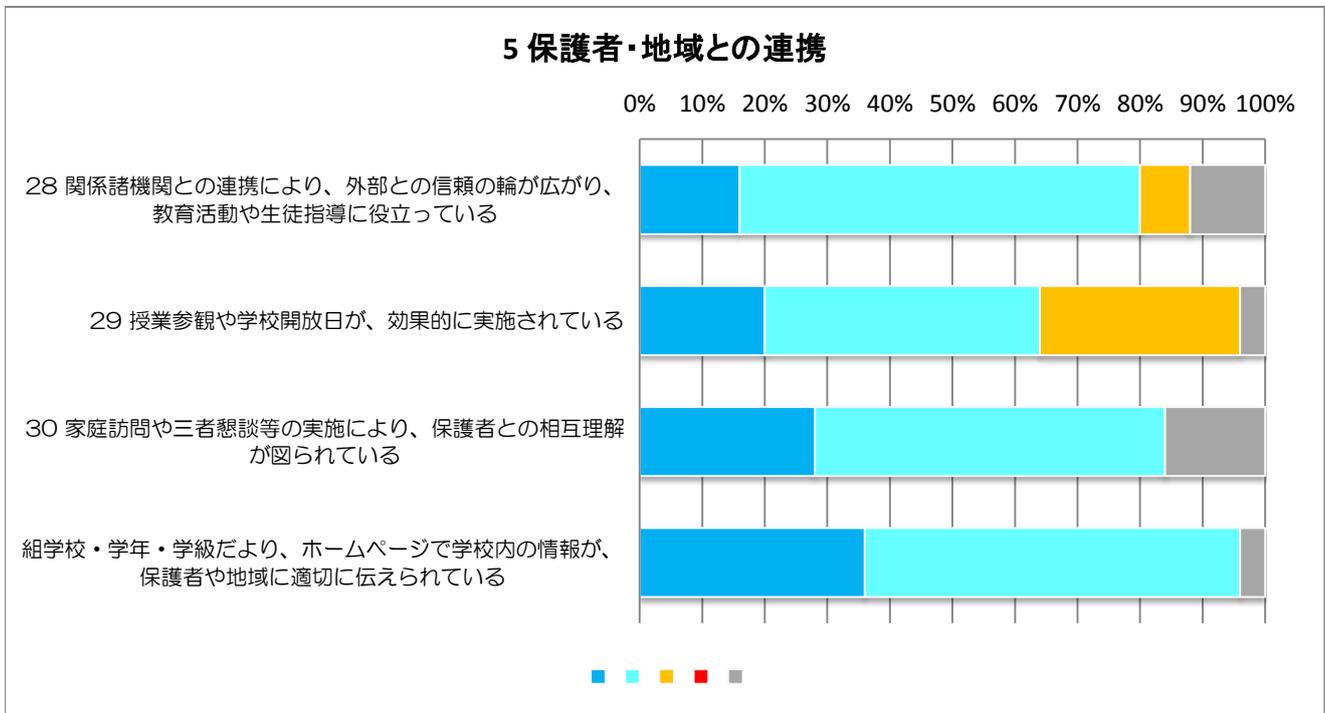
4 特別活動・その他

学校評価項目	4	3	2	1	0	評価	
						後期	前期
21 生徒会活動(委員会・学年生徒会含む)が、学校生活の充実・改善向上を目的として、生徒の自主性が育っている	3	12	7	1	2	2.7	2.7
22 部活動において、生徒が達成感を得られるよう、活性化するための工夫や配慮がなされている	4	13	3	0	5	3.1	3.0
23 合唱を推進する活動が計画的、効果的に行われ、生徒の心の教育や集団づくりに役立っている	5	15	2	0	3	3.1	3.0
24 学校行事が組織的に計画され、協力体制のもとで、実施されている	8	14	1	0	2	3.3	3.2
25 今日的な健康課題(薬物乱用・エイズ・熱中症等)について、十分な指導がなされている	9	12	2	0	2	3.3	3.1
26 特別支援教育(広義)が綿密な計画に基づいてきめ細かく実施されている	3	14	6	0	2	2.9	2.8
27 特別支援学級が綿密な計画に基づいてきめ細かく経営されている	5	15	2	0	3	3.1	2.9



5 保護者・地域との連携

学校評価項目	4	3	2	1	0	評価	
						後期	前期
28 関係諸機関との連携により、外部との信頼の輪が広がり、教育活動や生徒指導に役立っている	4	16	2	0	3	3.1	3.1
29 授業参観や学校開放日が、効果的に実施されている	5	11	8	0	1	2.9	3.2
30 家庭訪問や三者懇談等の実施により、保護者との相互理解が図られている	7	14	0	0	4	3.3	3.5
組学校・学年・学級により、ホームページで学校内の情報が、保護者や地域に適切に伝えられている	9	15	0	0	1	3.4	3.3



3 生徒指導・教育相談についての自由記述

- 教育相談については、カウンセラーや生徒指導の先生方を窓口にしてSSWの先生方と連携が取れています。生徒や保護者への対応を助けていただいております。
- 学年を超えての情報交換が十分ではないと感じる。
- 全校で足並みをそろえた指導がなされていないと感じる。
- 教育相談習慣を設定し、担任と生徒が向かい合って話ができる取り組みが必要ではないか。
- どのようなことが起こっているのかわからない状況にあるが、起こったことに対してできること、課題解決のための力がないので、何もできていない。
- 他学年の情報が入ってこない。

〈考察〉

- 教育相談については、生徒指導主事を中心にSCやSSWをよく活用している。また、複雑化する問題行動や保護者対応等、外部機関との連携は問題対応型予防として重要である。
- 情報交換については、運営委員会（職員会議でも…）で短時間であるが、問題行動等については報告がされている。生徒指導には、「治療的予防（教師としての問題に対する経験や知識をもとに早期発見・早期対応を徹底したり、発生を予測したり、問題を起こしそうな生徒を対象にした問題対応型予防）」と「教育的予防（将来起こりうる問題を回避・解決できる力を育てるとして全ての生徒を対象にした健全育成型の予防）」がある。この2つの充実についての情報交換を求めているのであれば、学級間や学年間の連携は重要であり、欠かせないことである。

4 特別活動・その他についての自由記述

- 特別支援学級については、是非来年は担任やT、Tで学習できるような配慮をお願いいたします。知的学級の生徒が増えること、学年が違くと学習内容も変わるので支援が必要と考えています。
- 自治活動の向上を図る為の手立てに苦勞しています。生徒のリーダーシップを高め、組織で活動することのメリット、デメリットを伝えながら活動しているところです。少しずつ集団として、どのように活動したらよいか、目的は何なのかを考え行動できる生徒が増えてきています。

○特別支援学級の授業の在り方は課題がある。3学年の生徒を1人で1時間の中で指導するのは無理があると思う。テスト作成の際の負担も大きい。関わる教員数をもっと必要だと思った。
 ○さくら学級の3学年にまたがる授業（社会および理科等）は、T.Tを付けるべきだと思う。（量の負担）
 ○生徒会活動が非常に少ないと思います。（行事ではなく、普段の生活の中での生徒の動きに関して）もっと、生徒を動かして、先輩の動きを後輩が見てあこがれるような取組・活動が必要だと思いました。
 ○委員会活動でもっと、生徒たちの活動を仕組むべきだと思う。
 ○日々の生徒会活動の取組を継続していくことが大切であると思う。
 ○委員会の時間が確保できないことや指導力不足もあり、自主性が育つまでの指導ができていない。
 ○新学習指導要領になって、だんだん自主活動にしわ寄せがある。時間確保を設定すべきと思う。
 ○特別支援教育について、支援教育に関する書類等（1・2年次の5教科の評定も公立高校等を志願した場合には調査書作成に関わり必要となる。今後は進学希望の生徒に関して、所見評価および5段階評価は準備する必要性がある。）がそろっていないかたりすることが課題である。

《考察》

○特別支援教育に関しては、特別支援コーディネーターを中心に担任や教務で人的支援や物的支援について十分に検討し、できる限り対応できる準備をしておく必要がある。
 ○特別支援教育の学習および生徒指導は、保護者や支援学校等の連携が重要である。また、保護者とは三者懇談や家庭訪問以外にも定期的な情報交換ができる機会を設定しておく必要がある。
 ○委員会活動や生徒会活動、学級会活動や班活動等の自治的能力を伸ばすには、日々の活動や行事で活躍する場面もあるが、時間を確保しなければならない活動もある。教育課程を柔軟に実施するために教務を中心に生徒会顧問や教科主任、行事担当者等で詳細に検討しなければならない。

5 保護者・地域との連携についての自由記述

○1学期に家庭訪問及び三者懇談と両方やらなくては良いと思う。（授業時間や学校での活動時間を確保する方がいいと思いました）
 ○保護者が生徒に関わる機会が少ない。授業を見にくる家庭や部活動を見にくる家庭が少ない。
 ○下校のパトロールとかを保護者がやってくれば、冬場の生徒の活動時間ももう少し、伸びたりしないものやと思います。
 ○「地域ふれあい道徳」の参観者が少なく、あまり意義があると感じられない。（学校ばかりが忙しい）
 ○事務用品の不足。使いたいと時に間に合わない。どこにあるかわからない…が多い。できるだけ、同じ場所にわかりやすくしてほしい。
 ○新しく赴任した先生に、強歩大会のコースの下見や灯油の入れ方（ある場所）など一通り教えて欲しい。
 ○2学期にも学年P、学級Pを開きたい。

《考察》

○生徒や保護者アンケートから、「甲西中の教職員は相談しやすい」の評価が低く、生徒や保護者との関わる時間を求める声もある。授業参観の参観者が少ないのはなぜか、家庭訪問の必要性および学級懇談会の必要性など、地域や保護者を手繰り寄せる活動が進められている中で、いかに魅力ある学校をめざすかにある。道徳の教科化や土曜日の活用促進等が動き出している。
 ○事務用品の使い勝手が悪いという声があった。詳細がわかれば、改善できる方向を取りたい。ただ、不足等があればこまめに事務に声をかけ、補充し教育活動に支障がないようにしていきたい。
 ○今後、「施設の方法」、「設備見学」、「プールの使用説明」、「コース下見」、「給油方法」等は、月予定等に時間設定すれば解決できる。（教えること、聞くことを充実させたい。）

6 31項目以外の自由記述

○学級担任と生徒（教師と生徒）がゆとりを持って、放課後話し合う（二者懇談）ことができるような時間が少なかったような気がする。行事や会議・出張、何かしら放課後にいろいろな活動が入っているような気がしてならない。生徒が教師に相談できないような理由もそこにあるのかと
 ○小笠原礼法も小学校からの計画性が一から示されずにいる状況では、場当たりのことしか活動できず、具体的な指針を示してほしいと思う。
 ○行事精選とまでは言わないが、行事間の関わりや取り組み状況を保障するために、年間または学期単位で調整すべきではないか。時期設定や取り組み時間等、担任にとって無理な設定が多い。

《考察》

○学校教育の原動力となる学級担任の負担を考慮すべきではあるが、学校には1年を通して、忙しい時期とゆとりの時期がある。行事の時期的配置や授業との関連、行事の重複の可否および系統性等、詳細な検討が十分になされていないければ、常に多忙感を感じてしまう。行事の厳選より、行事の精選を大切に教育効果に重点をおく委検討が必要である。（1月・2月で…）

※前期より、上昇したのものには■印、下がった項目には■印を付けてあります。

